

第3回日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録検討委員会の結果概要

8月26日に第3回日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録検討委員会を開催し、提案コンセプトの再検討を行った。

記

1 検討委員会の結果概要

(1) 資産名称

日本茶のふるさと「宇治茶生産の景観」(仮称)

(2) 要旨

日本茶のふるさと「宇治茶生産の景観」は、中世以来、発展・継続してきた日本茶の生産により形成され、育まれてきた文化的景観であり、この地で誕生した抹茶、煎茶、玉露の栽培法と製法の伝統と革新の歴史を最も良く表しており、現在も最高品質の日本茶の生産を通じて日本独自の文化である「茶の湯」を支えている。日本茶とそれに関わる伝統的文化を語り、将来に伝えていく上で、他に例を見ない重要な遺産であり、顕著な普遍的価値を有している。

(3) 構成資産候補

- 「茶園と集落の文化的景観」を基本として、
 - ①覆下栽培の茶園と集落景観
 - ②露地栽培の茶園と集落景観 を、一次生産・加工の二本柱とする。
- さらに、宇治茶の特徴である「合組(ブレンド技術)」を2次加工の生産という概念に入れ、これにかかる③茶師・茶商の屋敷群を宇治茶生産の景観とする。

(参考：可能性検討委員会でのコンセプト)

名称：日本文化の代表的資産群～宇治茶と喫茶文化の発祥と継承の地～

- 京都・宇治・山城は、日本の文化の展開に応じた茶室・茶席や茶畑・茶問屋などの代表例が優良な状態で揃って残っている稀有な地域であり、日本の茶文化を生み、支え、育んできた「日本の喫茶文化の発祥と継承の地」である。
- 茶畑・茶工場、茶師・茶商の屋敷や茶問屋、茶室・茶席などを茶の生産、流通、喫茶にわたる代表的な資産群とする。

2 主な意見

- ・ コンセプトの中心を生産の景観に置くということについては、わかりやすいと思うが、ストーリーの中では喫茶文化や茶道についてきちんと触れてほしい。
- ・ 構成資産については、すぐに絞り込むのではなく、詳細な調査を行って可能性のあるものを洗い出してほしい。